

館 報

おみ

10月号
No.691

2024.10.25 (令和6年) 編集と発行／長野県東筑摩郡麻績村公民館
TEL 0263-67-2240



▲松本山雅サッカー教室（麻績保育園 9月25日撮影）

令和六年度 村民運動会開催

秋の一大イベントである令和六年度村民運動会を、十月二十日に総合運動場で開催しました。

前日の夕方から夜間にかけて雨が降り、開催が危ぶまれましたが、約三百人の住民が参加し、寒い中でも盛り上りのある運動会となりました。

今年度は新種目として、保育園から小学生までの子どもたちにゴールでプレゼントを渡す「おみぼんからの贈り物」や、令和六年一月一日に発生した能登半島地震などの災害に対し、防災意識を改めて高めてもらうよう、毛布を利用して簡易的な担架をつくるといった種目の「防災物競争」を設けました。

おみぼんの人気は高く、歩くだけで多くの子どもたちから囲まれ、なかなか動くことができませんでした。昨年度から子どもから大人までの村民が気楽に参加

できることを目的としております。

地区分館長・分館主事ほか役員の方々と運動会に参加された皆さんのご協力のおかげで無事に終了でき、楽しい時間を過ごすことができました。



▲新種目「防災物競走」



▲大人気のおみぼん



▲「入れ〜!」



▲消防ラッパの伴走



▲どの分館が一番長いかな？



▲ゴール前での一騎打ち



▲麻績消防署職員の皆さんも盛り上げてくれました



▲慎重に早くボール引き



長い間核兵器による被害と、その廃絶を訴え続けて来た団体がノーベル平和賞を受賞した。喜ばしいことなのだがモヤモヤする。裏を返せば世界情勢が不安定だということだ。当たり前前のことを言い続けて来た人たちが評価されるのは、当たり前前ではない世の中になって

いるからなのは皮肉だ。ノーベル賞はダイナマイトの発明者アルフレッド・ノーベルの遺言で設立された。人類に対して大きな貢献をした人物(団体)に贈られる賞だが、その基金となる財産は爆薬や兵器で得られたものだから皮肉だ。「死の商人」と呼ばれることへの反発からの設立らしい。科学の発展と軍事力の進歩は表裏一体なのがモヤモヤする。もともと為政者がノーベルのように「死後の名声」を気にかければ世の中は良くなるかもしれない。

被団教の受賞はめでたいが、唯一の被爆国が核兵器禁止条約に参加していない(できない?)現状。実はこれが一番のモヤモヤの原因だ。

OMIGOTO おみごと ギャラリー Gallery

天王 池田由美子さん

公民館サークル

「OMI-ZUMBA」主宰

「コロナの頃、何かやりた
いな、と思って」穏やかな
口調で思い切ったことを言
います。

新型コロナウイルス流行
を受け、さまざまな行事が
中止になっている頃、「あ
えて」発足。活動自粛をす



▲ラテンのリズムに合わせて



▲池田由美子さん

るサークルも多い中、「ズ
ンバ」は毎回活動していま
した。

ズンバとは二十一世紀に
なった頃始まったエクササ
イズで、主にラテン系の音
楽に合わせて踊るのだそう
です。由美子さんも二十年
ほど前に出会いました。決
まった振り付けは無く、指
導者は基本のステップに合
わせて自ら振りを付けてい
くのだとか、インドやアフ
リカの踊りを学んだ由美子
さんの経験が生きているよ
うです。

サークルでは、メンバ
ーの皆さんは事前の知識が無
いまま由美子さんの踊りを
見よう見まねで踊ります。
なんだかとても難しそうで
すが、「皆さんちゃんと踊
れています」とのこと。ま
た、習熟度によってテンポ
の違う曲で踊ったりもする

そうです。

麻績村ズンバ人口 増殖中?!

現在「OMI-ZUMBA」
は毎週月曜日の昼夜二回と、
月二回の日曜日に活動して
おり、公民館サークルでは
一番活発です。総勢二十人
以上とか。また由美子さん
は「麻績ヨガ」も主宰、
こちらは週一回十五人ほど
が参加しており、共に村の
皆さんの心と体の健康に貢
献しています。由美子さん
は今後も、「体を動かす楽
しさを、皆さんに伝えたい
」と話していました。

保育園にお泊り

麻績保育園お泊り会

「保育園が楽しくて帰りが
くない!」と、年長児ひま
わり組の子どもたちがお泊
り会を計画しました。

初めての試みでしたが、
子どもたちが輪になって思
いを伝え合うサークルタイ
ムで話し合いを重ね、カレ
ーを作ったり、みたらしの
湯へお風呂に入りに行った

り、お化け屋敷でちょっぴ
り泣いたり自分たちで決
めたやりたいことがすべて
詰まった大成功のお泊り会
になりました。

少し心配していた夜も安
心してぐっすり眠り、朝に
は「楽しかった!また泊ま
りたい!」とご機嫌に帰り、
おうちの方からも「一回り
大きくなって帰ってきまし
た」と喜びの声をいただき
ました。

子どもたちの力を信じて、
「楽しんできてね」とお家
の方が送り出してくださっ
たからこそ、自分のことは
自分でやり、友だちと楽し
く過ごした素敵な思い出に
なったのだと思います。



▲お気に入りのぬいぐるみと
一緒にお泊り

クラブ活動 がんばりました

六月から活動してきた麻
績小学校クラブ活動が十月
二十四日に終了しました。
交流センターで、ボラン
ティアの方を講師に迎えて
活動してきた麻績小学校茶
道クラブの皆さんは、保護
者が観覧する中、これまで
の成果を披露していました。



▲朝食はバイキングだよ!



▲正座も完璧です

元気通信!!

今月の小・中学校

麻績小学校

十月四日、休み時間に初の試み、「おみつこオンステージ」が開かれました。夏休みにダンスクラブがサマーナイトフェスティバルに参加したように、子どもたちの自己表現の場を何か応援できないか、職員室で話題にしてみました。

そのことを、ダンスクラブの子どもたちに伝えたとこ、子どもたち自ら、児童会とコラボして、ポスターを描き、給食の時間に開催を告知したのです。

その告知に応えた第一回の出演者は、ダンスクラブのメンバーとお手玉名人の四年生、そしてピアノ演奏の六年生でした。司会を務めたのは児童会長。軽快なトークで場をあたためると、出演者は観客と対話しながらそれぞれ披露し、大きな拍手をもらいました。こう

して実現した「おみつこオンステージ」。第三回目を十一月二十二日、第四回目を十二月十三日に予定しています。地域や保護者の方も参観に来ていただいてOKです。みんなで盛り上げていきましょう。



▲お手玉名人



▲名司会の児童会長

筑北中学校

聖南中学校との交流

一年 渡邊 楓花

十月七日に聖南中学校との交流会がありました。私は人見知りなので、行く前も行った後も話せるかどうか



▲ピアノ演奏を披露



▲ダンスクラブのパフォーマンス



▲聖南中学校生徒と一緒に

か不安でした。やったことは、アイスブレイク、もうじゅう狩り、お互いの学校紹介、「どっこい清掃」の紹介でした。アイスブレイクともうじゅう狩りは、自己紹介みたいなことをしました。「どっこい清掃」は、最初どういうことをするのか分からなくて、そうじをするのかなと思っていただけ、かけ声だけでした。聖南中学校の歌声を聞いたら、とても大きな声です。私はいと思いました。私はこの交流を生かして、人とのつながりを広めたいです。

音楽会を終えて

二年 黒岩 千隼

十月十八日に音楽会が行われました。音楽会では、保育園の園児、小・中学校の児童・生徒がそれぞれの想いを乗せ、演奏を届けました。その中で特に記憶に残った演奏が二つあります。一つ目は保育園児の演奏です。元気いっぱいの歌声と可愛いダンスが印象的でした。

二つ目は中学三年生のです。最後の音楽会になった今年、やっぱり三年生はすごいと思える歌声で、すごく感動しました。でもどの学年の演奏も、とても素敵でした。



▲保・小・中が一堂に会した「おみつこミュージックフェスティバル」



▲大成功のステージ発表

私たちの筑北祭

三年 川久保 瑛斗

私たち三年生は、生徒会を運営していく上での一大イベント、筑北祭を九月二十八日に行いました。筑北祭百日前から準備を始め、当日に備えました。当日はとても緊張しました。でも、円陣を組み、気合いを三年生同士で入れ合いました。企画は、英語スピーチ、筑中有名人、学年発表、学校すごろくなど、様々でした。私が一番思い入れがあるのが、オープニングとエンディングのセレモニーです。劇を行いました。クラス全体で盛り上げようと脚本も台詞も考えました。結果は大成功でした。生徒会を運営していく中で、筑北祭は最高の思い出となりました。

相撲と麻績の事跡

(その十一)

おわりに

国技・相撲は、神代に信濃の国縁の力士・天手力雄命・建御明方命は諏訪大明神に祭祀され、神技として誕生し、今日まで継承されている。

現東御市出身、江戸時代の力士、雷電為右衛門は、当時の最高位大関在位十六年間、優勝二十五回の輝かしい成績を残した。

怪童坂田金時は、信州生まれだという異説がある。

軽井沢出身の碓氷荒太郎貞光(元服名貞道)は、清和源氏の嫡男源頼光の家来であったという。金時と相撲をとった豪力で、谷底に落ちた牛を担ぎ出したという逸話もある。

優勝三回の御嶽海は木曾郡上松町出身、昭和五十三(一九七八)年「やまびこ国体」相撲競技が木曽町で開かれた。

令和十(二〇二八)年に

開催される「国民スポーツ大会」の相撲会場は、木曾町民相撲場が会場となり、リニューアル工事が進んでいる。

信州と相撲は、神話の時代から深い関わりを持っている。

麻績では、江戸時代から昭和の前半に、奉納相撲・子供相撲など盛んな時代があった。

この記事を執筆する発端は、冒頭で記したように、林家からの江戸末期の力士免許の提供にあった。

現時点までに確認された麻績村における相撲史料は、上井堀区に三通・麻績小学校百年史沿革年表・明治町百年史掲載の写真三枚、「戦争の子供たち、昭和の街角」である。

また、明治町区(区民所蔵)に珍しい昭和初期の「祭典興行許可願と図面」が所蔵されている。

このほか、多くの区や村民宅に相撲史料が所蔵されていることと推察する。

「麻績相撲史」の発刊も夢ではないと思う。

本稿の執筆にあたり、資料の提供をいただいた各位に厚く御礼申し上げます。

参考・引用文献(順不同)

麻績村誌、麻績村石造文化財、林家所蔵文書、麻績神明宮神社誌、上井堀区所蔵文書、信濃毎日新聞、東筑摩郡・松本市・塩尻市誌、曼荼羅の里日向村今昔物語、上井堀の神社、長野郷土史研究会誌「長野」、長瀬今昔物語、日本歴史地名大系(長野県の地名)、長野県地名大辞典、館報おみ、日向村誌歴史教育編、長野縣町村誌北信・東信・中信編、市民タイムス、長野県歴史人物大辞典、NHKテレビ、諏訪大社本宮電話問い合わせ、本陣の記録、麻績小学校百年史、明治町百年史、昭和の街角(写真集)、信濃史学会誌、「信濃」戦争の子供たち

「寄稿」信濃史学会会員

飯森 忠幸

公民館行事の予定

●青少年育成運動推進大会
・人権教育指導者研修会

日時..十二月七日(土)

午前十時から

場所..地域交流センター

講師..中信教育事務所

●第八回麻績字級

日時..十二月十四日(土)

午前十時から

場所..地域交流センター

内容..ニュースポーツ

「ラダーゲッター」

講師..中信教育事務所



▲10/23 筑北中学校の奉仕活動
で旧麻績小学校北校舎を清掃

池の平湿原を散策 第五回麻績学級

第五回の麻績学級は「自然を楽しむ」ことがテーマで、「池の平湿原 視察研修」と題して、九月二十六日、村外の研修を開催しました。

バスで標高約二千メートルの上信越高原国立公園湯の丸高原池の平湿原（東御市）へ移動し、ガイド付きで現地の自然を楽しみながら散策しました。信州とみ観光協会の湯の丸高原担当ガイドの方による松や笹といった湿原に生息する植物などの解説を交えながら歩き続けました。



▲研修の前に皆さんで記念撮影

後半は疲れもありましたが、休憩を挟ながら二時間近く楽しく散策しました。



▲ガイドの方から植物の解説を聞く

毒と薬の関係は？ 信州大学出前講座 第六回麻績学級

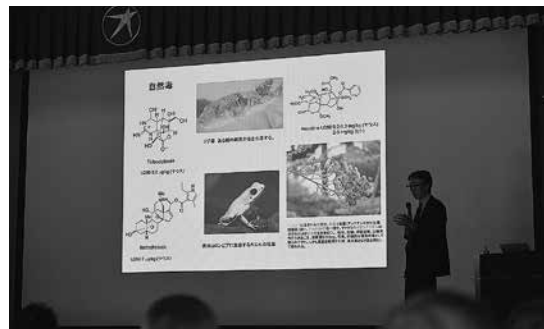
第六回麻績学級は、信州大学繊維学部教授の西井良典さんを講師として、十月二十四日に交流センターで開催し、二十六人が参加しました。

私たちの生体にある受容体に物質が合致する関係を鍵と鍵穴の関係でたとえていました。

また、その物質が毒になるか、薬などになるかは、濃度や似ている分子構造に

よって影響が異なり、毒の研究が薬の研究につながっているとのことでした。

参加された皆さんは、熱心に聞いてメモを取り、質疑応答では、カフェイン中毒について質問があり、量や体質によって異なるが、どんなものでも、とりすぎは良くないとのことでした。



▲毒と薬の違いとは？

歩く時にも姿勢が大切 第五回ふれすぽ

「スロージョギング&ウォーク」と題して、NPO法人まつもとスポーツサービスの皆さんを講師に、九月二十九日に第五回ふれすぽを麻績村体育館で開催しました。

ヨガマットの上で、片膝立ちで両手を開いた姿勢をとったり、ジャンプをしたり、正しい姿勢でジョギングとウォーキングを繰り返す運動を行いました。

歩くときや走るときにも姿勢が重要と、あらためて学びました。



▲二人そろってジャンプ！

聖博物館 スカイフェスティバル

聖博物館で十月五日にスカイフェスティバルが開催され、親子など多くの方が訪れていました。

パイロットの制服を着て博物館に展示されている初等練習機であったT-34Aのコックピットでの写真撮



▲飛行機が飛ぶ原理を解説



▲初等練習機「T-34」

影、映像を見ながら飛行機を操縦する体験ができるフライトシミュレーター、また元パイロットの方による「なぜ飛行機は飛ぶのか？」と題した航空教室が開催され、子どもたちも話に聞き入っていました。

館報と一緒に配付される新着本も人気ですが、館内の企画本コーナーには、毎月、季節やその時のテーマに沿って職員が選んだ本が並んでいます。「読書の秋」どうぞご来館いただき、自分とは違った選書での読書はいかがですか？



▲20年分のベストリーダー

出版年は古いですが、やはり人気があった本のため、たくさんの方が利用がありました。ご利用ありがとうございました。

図書館企画本コーナー

二十周年を迎えた六月からいつもの企画本コーナーは「プレイバック二十年」として、二十年間のベストリーダーやベストリクエスト等を掘り起こしました。

図書館見学
デイサービスセンターみづきの利用者の皆さんが図書館見学に来館されました。紙芝居を楽しんでいただいた後、図書館内をご案内しました。



▲皆さんノリが良くて演じやすい

小学校や中学校の記念誌をご覧になりながら、当時のことをお話しされたり、ゆっくり雑誌を読まれたり、思い思いに楽しんでいる姿がありました。「こんなになくさん本があるなんて知らなかった」「また来たい」とお声をいただきました。本を借りていかれ



▲背中に開館20周年をしょって

村民運動会
すでにおみ図書館の伝統と言ってもいい村民運動会の団体別リレー参加。今年子どもたちに大人気のキヤラクター「かいけつゾロリ」になり切って開館二十周年をアピールしました。完璧な仮装のためにつけた仮面に予想以上に視界を奪われて、悪戦苦闘のレースでした。



▲思い出話に花が咲きました

狙っていたユーモア賞が
「つ頃、爆発するのかな」と楽しみにしていました（本の紹介後、一週間で爆発しました）。さて、須佐之男命の子孫であり大黒様として知られている大国主命は、サメに皮を剥がされたしろうさぎに「蒲の花粉を敷き散らし

先月号でも紹介した日本の神話シリーズ。第四巻は、『いなばのしろうさぎ』です。今回は、休耕田に生えていた蒲の穂を飾り、実際に見せながら話をしました。初めて見た子もいて、「フランクフルトみたいで、美味しそう」とそっと触れて感触を楽しんでいました。また、それが爆発することを知っていた子は、「いつ頃、爆発するのかな」と楽しみにしていました（本の紹介後、一週間で爆発しました）。さて、須佐之男命の子孫であり大黒様として知られている大国主命は、サメに皮を剥がされたしろうさぎに「蒲の花粉を敷き散らし

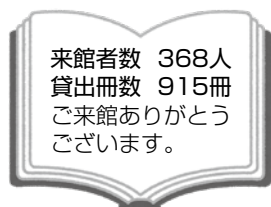
麻績小学校図書館だより



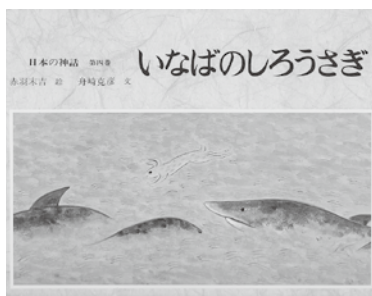
▲最後まで頑張りました

今回は無くて…。来年はどうなりますことやら。

9月の図書館



来館者数 368人
貸出冊数 915冊
ご来館ありがとうございます。



日本の神話 第四巻
舟崎克彦 文 あかね書房

た上に転がりなさい」と正しいことを教えた神様です。優しい性格で、美しい八上（やがみ）姫と結婚しハッピーエンドで終わるものと思っていました。が、まだ続きがありました。そのことで兄たちの反感を買い、何度も命を奪われたのです。その結果、大国主命は出雲の国にはいられなくなり、遠い黄泉（よみ）の国へ旅立ったのだそうです。その後の運命はいかに！続きは五巻へ。



麻績消防署からの お知らせ

「いざ」に備える 救急講習会開催

突然の心停止からの救命には心肺蘇生法とAEDによる迅速な電気ショックが必要不可欠です。多くの方がAEDという言葉を知り、街中で多く見かけるようになりしました。

しかし、未だに倒れるところを目撃された心停止の方に対してAEDを使つて電気ショックがなされる割合は数パーセントにすぎません。

AEDが現場にあれば、電気ショックの必要性を判断し、救命をサポートしてくれます。もっと多くのケースに心

肺蘇生法がなされ、AEDを使って、多くの命が救われる社会を目指して、知識だけではなく、救命のための行動を起こすことの大切さをみんなで考えるために講習会に参加してみませんか？

「いざ」という時に行動できるために、ぜひ応急手当てのを知ってください。

日時

十二月七日(土)

午前九時から十二時

(三時間)

場所

地域交流センター

内容

普通救命講習会

【成人対象】

募集定員

三〇名

受講申し込み連絡先

麻績消防署

(☎六七・二九九二)

明科消防署

(☎六二・二九九二)



「麻績かるた」より 「麻績村トリビア」

④けもの害

田畑を守る

電気柵



電気柵、増えましたね。

それだけ害獣が増えてきているのでしよう。シカやタヌキをはじめ、クマ、イノシシ、ハクビシン。キツネやウサギもいるようです。そして近頃ではカモシカも出没するとか。シカ、タヌキなどは人間の姿を見ても逃げません。こちらを見返してきます。なんだか「むかしばなし」の世界のようですが、

被害は深刻です。電気柵は効果的ですが、人里に降りて来ない手立てはないのでしょうか？

◎コーラスで

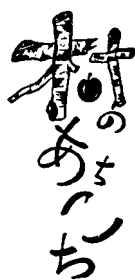
敬老の宴
盛上り



九月十九日、村主催の敬老会が五年振りに開催されました。

思えばここ数年「コーラス」や「宴」で「盛り上がる」ことは一切できませんでしたが、とてもうれしいことです。

とはいえ、「飲酒」や「コーラス」にはまだまだ慎重のようです。
音楽には、その場を一つにする力があります。今回の敬老会では歌謡ショー、公民館でもしばしば音楽鑑賞の行事が開かれています。どちらも「聞く」のみですが、いつか皆で大きな声を合わせられることを信じて、今は口ずさむだけにしましょう。



お誕生おめでとう



長幅 桔壺ちゃん
樹・美希 (天王)

ご冥福を祈る

桐山 義久 98歳 砂原
峰村 敏幸 74歳 下井堀
久保田初榮 84歳 市野川